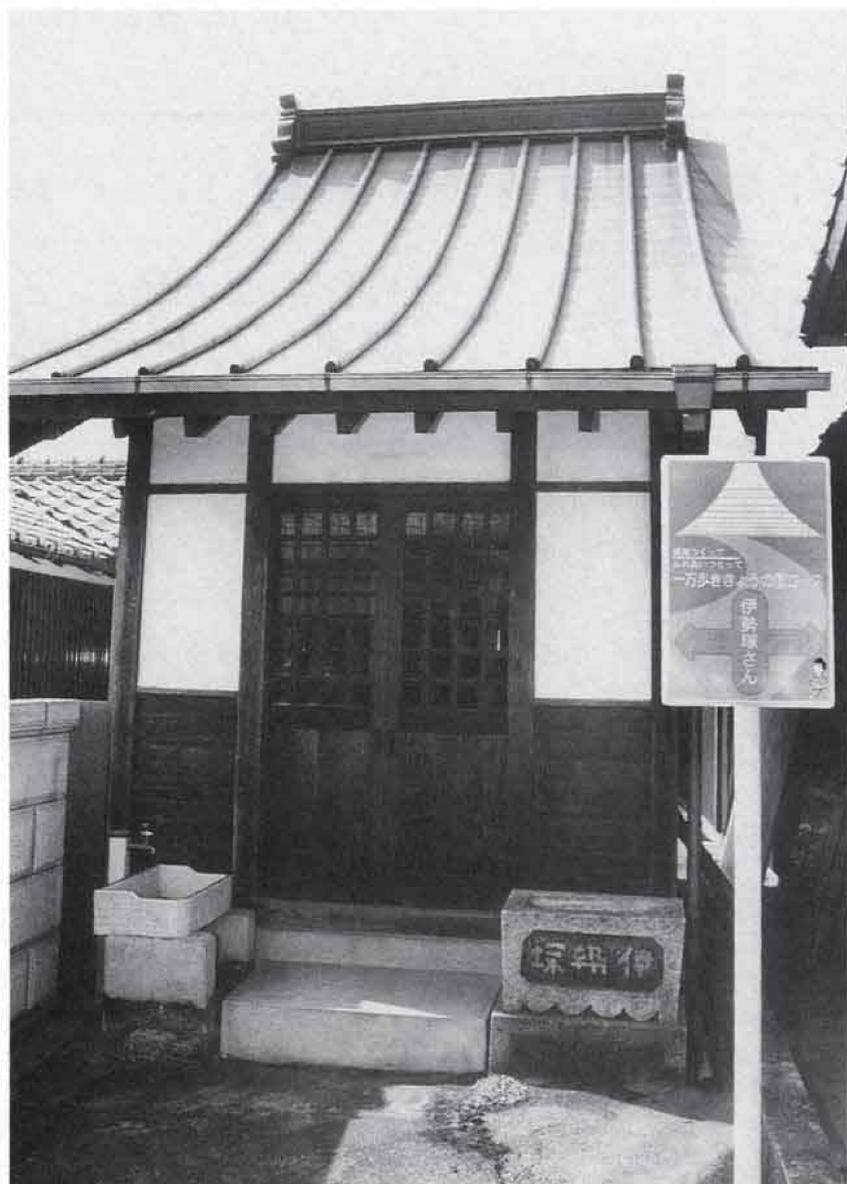


# 富士の民話 あれこれ

## 伊勢塚さん

宮下に「伊勢塚さん」というほこらがあります。ここには、お伊勢参りの途中にこの地で倒れ、亡くなってしまった人を祭っており、病気を治す神様として知られています。  
今回は、伊勢塚さんへの朝晩のお参りを欠かさない大石みな子さんから、お話を伺いました。



今から三百年ほど前のことです。何日も雨の日が続いたことがあります。富士川を渡る旅人たちは、渡し船が出ないので、それはそれは困りました。  
その旅人の中に、お伊勢参り途中の一人の重い皮膚病を患った年寄りがいました。どこの家でもその年寄りを泊めてはくれず、しょうがなくとほとほと雨に打たれながら、つえを頼りに宮下村まで来て倒れてしまいました。  
幸い、とても親切な家の人たちがその年寄りを泊めてくれました。そして、親身になって手厚い看病をしてくれたのですが、雨の中を何日も歩いて来たために弱り切っていた年寄りは、間もなく死んでしまいました。  
年寄りは死ぬ間際に  
「どうか私をここへ祭ってください。そうすれば、私と同じ病で苦しむ人たちを救ってあげられる…」  
と言い残したので、その家の人を初め、村の人たちがほこらを建ててあげました。  
それ以来、そのほこらは「伊勢塚さん」と呼ばれ、病気を治すためにたくさんの方がお参りしたそうです。

我が家の敷地内に伊勢塚さんは祭られています。伊勢塚さんをお参りすると、皮膚病が治ると言われており、供えた水を皮膚に塗ると、よく効くそうです。  
また、大石家の祖母から聞いた話ですが、いつごろのことか、伊勢塚さんをほかの敷地へ移したことがあるそうです。すると、宮下村の多くの人たちが病気になるってしまいました。そのため、すぐにもとへ戻したところ、村人の病気は治ったということでした。



大石みな子さん（宮下）

### こちら編集室

育児休暇中の妻は、社会福祉士を目指し、通信教育で猛勉強中。ただし、資格取得には12日間の施設実習が必要なのだと言う。そこで、自称、男女共同参画社会推進員のこの私、広報ふじの編集の合間を縫って仕事を休み、しばしの間、育児に専念することとなった。

「女房にできることが俺にできぬわけがない。俺の父性を持ってすれば…」とたかをくくってみたものの、「子は泣けども乳は出ず」。やっぱり母親にはかなわない。だけど、それまでは気づかなかった娘のわずかな成長を実感できたし、とても貴重な体験となった。(ヤイツ)

人口 233,836人  
男 116,495人 女 117,341人  
世帯 73,985世帯 (2月1日現在)  
発行・編集 富士市総務部広報広聴課  
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

